

# 1 宇都宮の歴史

① 宇都宮の幕開け	8
② 文武に秀でた宇都宮氏	20
③ 城下町 宇都宮	32
④ 戦災を生き抜いたまち 宇都宮	42
探究活動 宇都宮の歴史を紹介しよう！	56
資料 宇都宮市歴史年表	58



関連する単元等

- 社会歴史**
- 歴史をとらえる見方・考え方
  - 身近な地域の歴史
  - 日本列島の誕生と大陸との交流
  - 古代国家の歩みと東アジア世界
  - 中世の日本
  - 近世の日本
  - 欧米の進出と日本の開国
  - 明治維新
  - 日清・日露戦争と近代産業
  - 世界恐慌と日本の中国侵略
  - 第二次世界大戦と日本
  - 現代の日本とわたしたち
- 国語**
- 伝統文化を受け継ぐ
  - 『万葉集』
  - 『古今和歌集』
  - 『新古今和歌集』

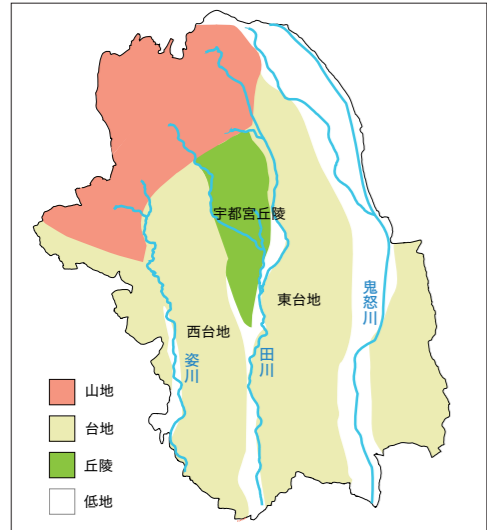


下の①～③の写真は、宇都宮の遺跡で発見された遺物です。何時代のものか線で結んでみましょう。



① 縄文時代  
② 弥生時代  
③ 古墳時代

↑ ① うつのみや遺跡の広場 (縄文時代前期の根古谷台遺跡)



↑ ② 宇都宮の土地  
北部の古賀志山地、そこからのびる宇都宮丘陵の先端部に、中心市街地が形成されています。市内には鬼怒川、田川、姿川の3本の川が流れ、その間に安定した台地が形成されています。

→ ③ 宇都宮清陵高校地内遺跡から出土した石器



- 左の写真は、宇都宮清陵高校の校舎を建てる前の発掘調査で見つかった石器だよ。旧石器人は石を加工し、狩猟などの道具として使っていたんだね。
- 宇都宮市内には、縄文時代の根古谷台遺跡(→p.12)や奈良時代の上神主・茂原官衙遺跡(→p.11)など、国の指定を受けるほどの重要な史跡が残っているようだ。
- 宇都宮に住む当時の人々はどんな暮らしをしていたのかな? → p.12
- 宇都宮に遺跡があるようだけど、どのくらいあるのかな? → p.19

## 学習問題

なぜ宇都宮に人が集まったのだろうか。

## 縄文・弥生時代の宇都宮

宇都宮は、昔から、自然災害が少なく水資源にも恵まれていました。縄文時代になると、気候の温暖化により豊かな森が形成され、さらに住みやすい環境が整います。宇都宮においても、この時代に定住し、集落を形成した跡が確認されています。人々の生活の変化を見ていきましょう。

### 1 定住生活のはじまり

縄文時代のはじめ頃になると、次第に温暖化し、土器が発明されます。この時期の居住地として洞穴を利用した大谷寺洞穴遺跡(大谷町)が有名です。洞穴内からは、土器や石器のほか人骨も発見されています。一方、平地には竪穴住居が造られるようになります。野沢遺跡(野沢町)の竪穴住居跡は、1万2千年前と推定されるもので、定住生活が定着し、豊かな縄文文化の出発点を語る貴重な遺跡です。

### 2 拠点となるムラの出現 根古谷台遺跡 → p.12

縄文時代前期になるとさらに文化が充実します。根古谷台遺跡(上欠町)は、その時期に営まれた大規模な集落跡です。姿川沿いの台地上に営まれた集落で、中央に広場があり、その周囲を大型建物が取り囲んでいました。広場内には約300基の墓穴があり、その一部の墓穴から耳飾りや管玉が出土していることから、このムラのリーダー的存在の人物の墓と考えられます。

### 3 気候変動による人口の増減

縄文時代中期までは、温暖な気候が続き、人口が増加し、竹下遺跡(竹下町)や、御城田遺跡(駒生町)、下西原遺跡(上籠谷町)、梨木平遺跡(高松町)などで、この時期の集落跡が多く見つかっています。

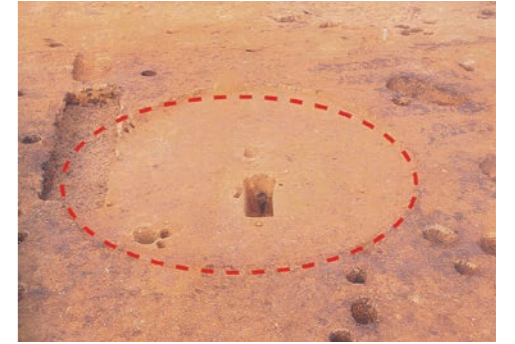
ところが、その後、縄文時代後期から晩期にかけて、次第に気温が下がり、人口が減り、集落の数も少なくなりました。この時期の遺跡からは子孫の繁栄や社会の安定などを願って作られたと考えられる土偶等、様々な祈りの道具が出土しています。

### 4 縄文的色彩が残る弥生時代の宇都宮

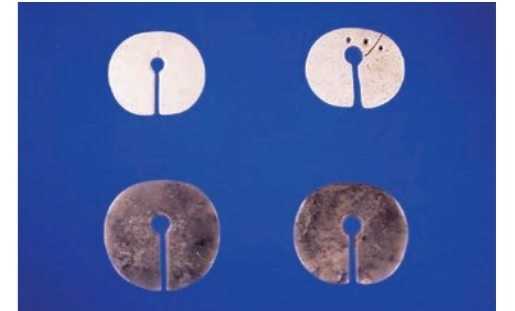
宇都宮市内の弥生時代の遺跡は、他の時代に比べると少なく、集落の規模も小規模です。生活で使用する道具は、縄目の文様を付けた弥生土器や石器などで、縄文時代以来の採集生活の割合が大きく、稲作はまだ十分に発達していなかったようです。墓は土器の中に骨を入れて埋葬する形態のものが見つかっています。



↑ ④ 大谷洞穴遺跡で発見された縄文人骨 (大谷寺蔵)



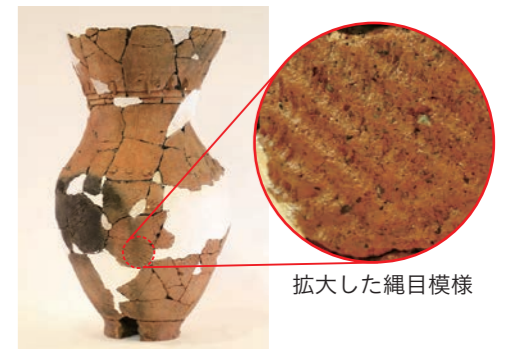
↑ ⑤ 縄文時代草創期の竪穴住居跡 (野沢遺跡)



↑ ⑥ 縄文時代前期の耳飾り (根古谷台遺跡)



↑ ⑦ 縄文時代晩期の土偶 (刈沼遺跡)



↑ ⑧ 縄目の文様をつけた弥生土器 (本村遺跡)

**ことば**  
**畿内**  
 古代の行政区分。山城、大和、河内、和泉、摂津の五か国の総称。今の京都府、奈良県、大阪府、兵庫県の一部。



↑ 1 愛宕塚古墳(茂原古墳群)出土の鏡



↑ 2 笹塚古墳



↑ 3 瓦塚古墳の人物埴輪



↑ 4 長岡百穴古墳

## 古墳時代の宇都宮

古墳時代には、宇都宮市内にも数多くの古墳が造られました。古墳の形や出土品などから、畿内地方の大和政権との交流がうかがえます。宇都宮に花開いた、古墳の文化を見ていきましょう。

### 1 古墳時代の幕開け

宇都宮における本格的な稲作は、古墳時代になってからです。この時期の遺跡からは、東海や南関東地方で使われていたものと同じような土器が出土することから、人の移動により古墳文化が広がってきたと考えられます。

茂原古墳群(茂原町)は、3基の前方後方墳で構成され、市内で最も古い古墳群です。

### 2 大型前方後円墳の登場

大阪平野に巨大な前方後円墳が造られた5世紀に、田川流域に笹塚古墳(東谷町)、姿川流域に塚山古墳(西川田町)が造られました。いずれも古墳の大きさが100m前後の大型前方後円墳です(→p.13)。これまでの小地域を治める有力者から、より広範囲な地域を治める首長(豪族)が登場したことを物語っています。これらの首長は、大和政権とも強い結びつきを持っていたと考えられます。

### 3 宇都宮北部への古墳文化の波及(→p.14)

6世紀になると、宇都宮北部の丘陵上に多くの古墳が造られます。瓦塚古墳群(瓦谷町)は、前方後円墳1基と円墳約40基からなる市内最大規模の古墳群です。

前方後円墳である瓦塚古墳は、この地域を治めた人物の墓と考えられ、人物埴輪や家形埴輪などが出土しています。

この時期の古墳は追葬が可能な横穴式石室(→p.14)で、家族や親族などが葬られたと考えられます。

### 4 凝灰岩を掘りこんだ長岡百穴古墳

長岡百穴古墳(長岡町)は砂質凝灰岩が地表に見える丘陵の斜面に掘りこまれた、横穴式の群集墓です。7世紀頃に造られたと考えられます。石室部分にあたる横穴52基全てが、南を向いて開口しています。横穴には、扉石をはめこんだと思われる切りこみがあり、ほとんどの横穴には扉石があったと考えられています。

各横穴に彫られている仏像は、後世に彫られたものです。

## 奈良・平安時代の宇都宮

701年に大宝律令が制定され、次いで710年に奈良の平城京に都が移され、律令国家の体制が確立します。

下野国を治める国府は現在の栃木市に置かれました。国はさらに郡・里(郷)に分けられ、それらは郡司や里長に任命された地方の豪族が治めました。宇都宮は河内郡に属し、郡を治める役所(上神主・茂原官衙遺跡)が宇都宮市と上三川町の境に置かれました。

この頃、中央と地方を結ぶ道路網が整備され、政治の命令、税物の運搬、軍事用として利用されました。宇都宮では、東谷・中島地区遺跡群(インターパーク)や上野遺跡(平出町)で東山道と考えられる道路の跡が見つっています(→p.17)。

### 1 古代河内郡の役所跡 上神主・茂原官衙遺跡

上神主・茂原官衙遺跡(茂原町)は、古代河内郡の役所跡と考えられる遺跡です。遺跡内には政務を司る政庁、税として納められた稲等を取める倉庫が集まる正倉群が見つっています。

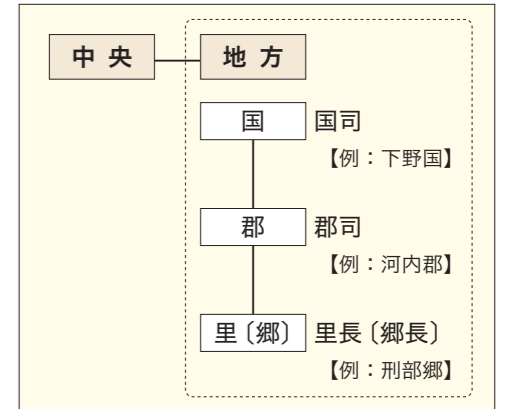
### 2 人名文字瓦の出土

上神主・茂原官衙遺跡内の正倉群の中に、屋根に瓦を用いた大規模な建物が1棟見つっています。その瓦の多くに、「雀部」「物部」「酒部」などといった人名が書かれています。奈良時代に河内郡に住んでいた約100人の名前を知ることができる、とても貴重な資料です。

### 3 池辺郷と二荒山神社

『倭名類聚抄』という書物には、河内郡内に存在したムラ(郷)の名前が書かれています。その一つに池辺郷があります。二荒山神社前の釜川沿いには昔、「鏡ヶ池」がありました。その周辺に発達した大きなムラが「池辺郷」と考えられます。

平安時代には二荒山神社がこの地域の守り神として信仰を集め、その門前が次第に発展していくことになります。



↑ 5 律令制下の地方組織



↑ 6 上神主・茂原官衙遺跡イメージ図



↑ 7 上神主・茂原官衙遺跡出土の人名文字瓦「マ」は「部」の「阝」を省略したもの。左は「ささきべしやうまる」、右は「しらべえみし」と読みます。

**ことば**  
**正倉**  
 律令制下、中央・地方の官衙・寺院等に設置された倉庫。



### まとめる ひろげる

自然豊かな宇都宮では、古くから、川が近く安定した台地の上で人々が暮らしてきました。古墳時代から奈良時代にかけては、宇都宮南部に豪族の館や郡を治める役所が設けられ、その周辺に人々が集まりました。その後、二荒山神社が地域の守り神として信仰を集め、現在の市内中心部にも多くの人が集まってきました。



根古谷台遺跡の発掘調査から保存・整備へ

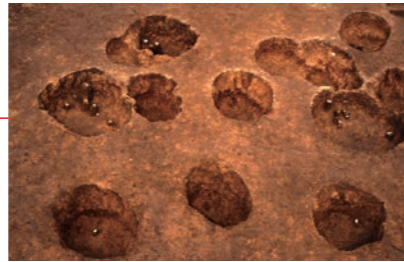
1 墓園造成に先立つ発掘調査

上欠町にある聖山公園を造る前、1982(昭和57)～1987年度にかけて発掘調査が行われました。調査を進める中で、縄文時代前期の大規模集落跡が発見されました。当時のムラは、数軒程度の竪穴住居で構成さ

れるのが一般的でしたが、根古谷台遺跡は中央に広場と集団墓地を設け、その周りに特殊な構造と大きさをもつ建物が立ち並ぶ大規模なムラであることが判明しました。



↑ ① 復元された大型建物



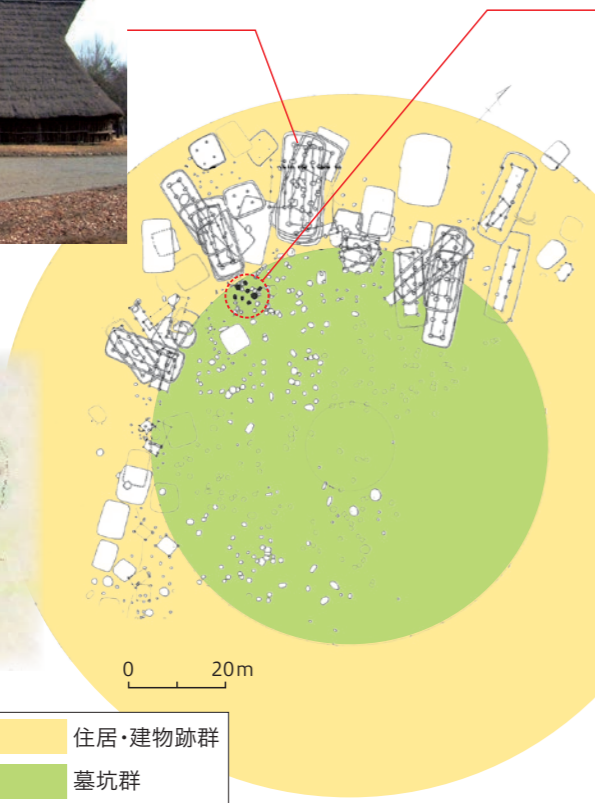
↑ ② 耳飾りや首飾りが出土した墓坑群



↑ ④ (上) 出土した首飾り  
(下) 出土した耳飾り  
(国重要文化財)



↑ ③ 縄文人の暮らし



2 遺跡の広場の整備

重要な遺跡であることが判明したことから、1987年に遺跡の保存が決定し、翌年に国指定の史跡となりました。その後、復元建物等が整備され、1991年には「うつのみや遺跡の広場」としてオープンしました。園内には、縄文時代の建物を復元したものやその時代の人々の暮らしを紹介する資料館があります。



↑ ⑤ 「うつのみや遺跡の広場」と資料館

ニッコウキスゲの自生地

園内には、本市ではめずらしいニッコウキスゲの自生地があります。毎年5月にはニッコウキスゲが満開となります。



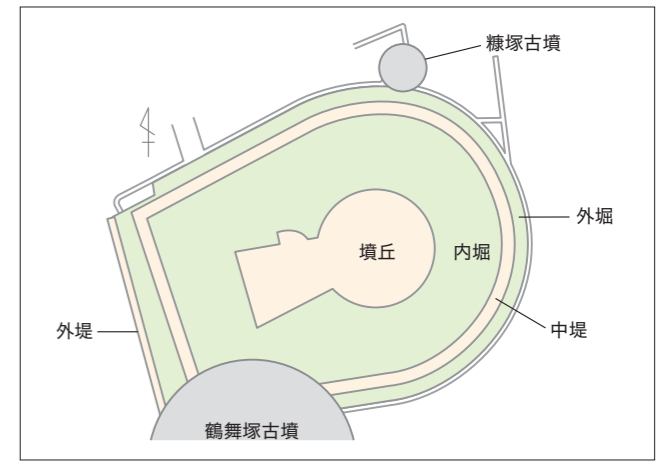
市内に所在する2つの大型前方後円墳

1 市内最大の前方後円墳 笹塚古墳

5世紀の中頃に、市内最大の笹塚古墳(東谷町)が造られます。この古墳の近くには、埋葬者が生前に生活していたと考えられる館とその周辺に暮らす人々のムラの跡が発見されています。笹塚古墳は、墳丘の長さが105mある大型の前方後円墳で、埴輪、葺石、二重の堀を備えており、近畿地方の大王墓と同じような特徴を持つ古墳です。



↑ ⑦ 笹塚古墳周辺写真



↑ ⑥ 笹塚古墳平面復元図

2 塚山古墳群

西川田町にある5世紀後半の古墳群。塚山古墳は墳丘の長さが98mある大型の前方後円墳で、このほかに、塚山西古墳、塚山南古墳の2基の前方後円墳と複数の円墳や埴輪棺により古墳群が構成されています。この地域を支配していた一族の墓と考えられます。



↑ ⑧ 整備された塚山古墳(西川田町)

① 埴輪棺

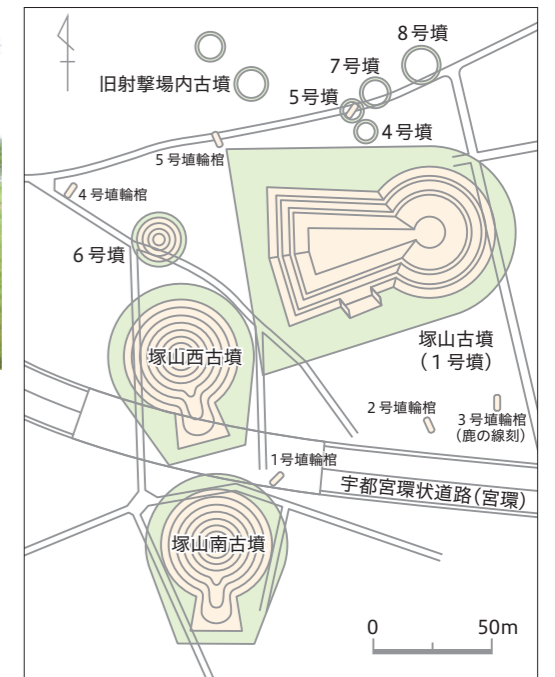
墳丘上に立てられる円筒埴輪を転用し棺として使用したもの。



↑ ⑨ 除草活動

3 古墳の整備と保護活動

県総合運動公園に近接する塚山古墳は、5月になるとサツキやツツジがきれいに花咲きます。これは、個人の所有者が古墳の形をわかりやすくするために整備したものです。この古墳群を保護するために、所有者や地域の人々、若松原中学校の生徒たちが除草活動などを続けています。



↑ ⑩ 塚山古墳の配置図

## 宇都宮北部丘陵上の古墳群

### 1 豊郷地区に残る宇都宮北部丘陵の古墳

宇都宮北部丘陵上の田川週辺には、多数の古墳が、今も残っています。

豊郷地区では、古墳を結ぶ散策路を、「まほろばの道」として整備しています。

また、長岡百穴古墳、瓦塚古墳群、谷口山古墳群、北山古墳群の保護活動を地域の人々や豊郷中学校の生徒たちが行っています。

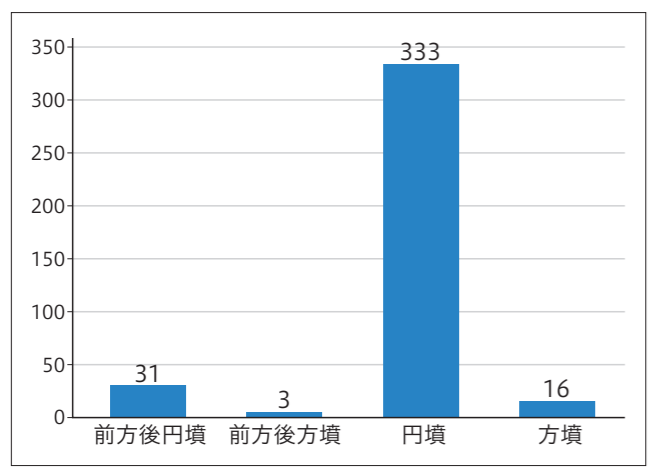
### 2 新たな埋葬方法の導入

6世紀になると、宇都宮北部の丘陵上に瓦塚古墳群、谷口山古墳群、戸祭大塚古墳群など多くの古墳が造られるようになります。これらの古墳の埋葬施設は、従来の竪穴式の埋葬方法でなく、追葬が可能な横穴式石室です。この葬法は朝鮮半島から伝来したもので、北山霊園内にある北山古墳群は、市内でいち早く新しい埋葬法を導入した古墳群です。



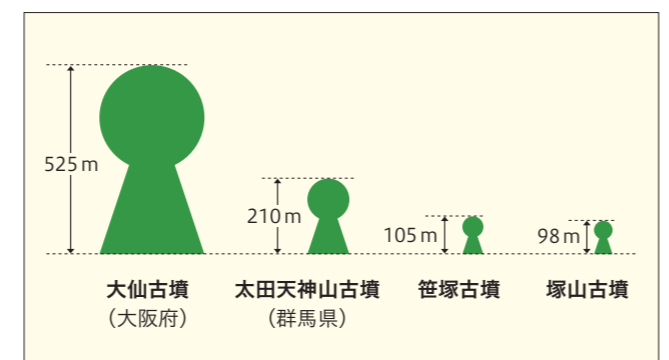
↑ 1 宇都宮北部丘陵上の古墳群の配置図

## さまざまなデータから古墳に埋葬された人物像を考えてみよう



↑ 4 現在確認されている宇都宮市内の古墳の数

現在、宇都宮市内には400基近い古墳が確認されています。その多くが円墳です。前方後円墳は、より力を持った人物の墓と考えられます。



↑ 5 5世紀の古墳の大きさ比較

大仙古墳(大阪府)は日本で一番大きな古墳で、太田天神山古墳(群馬県)は東日本で一番大きな古墳です。

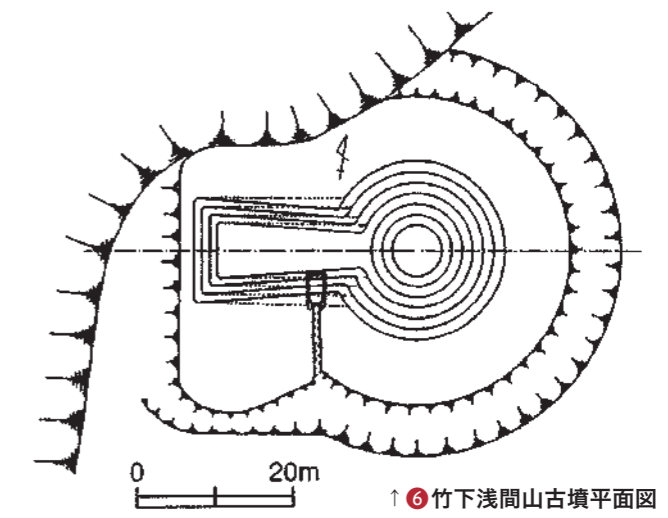
この2つの古墳と同じ5世紀に造られたのが笹塚古墳と塚山古墳です。この時期に造られた県内最大の古墳は笹塚古墳です。

### 竹下浅間山古墳

竹下浅間山古墳(竹下町)は、1973(昭和48)年に発掘調査が行われました。その結果、墳丘の長さが42mある前方後円墳であることがわかりました。

横穴式石室からは埋葬された人物の様子を物語る多くの副葬品が出土しています。

この古墳に葬られた人は、どんな人物だろう。



### 出土した副葬品



## 新たな文物の導入

下の表は、宇都宮市内の発掘調査事例から、当時の人々が使用していた生活用具や墓の移り変わりを当時の中心地である畿内と比較したものです。この表から、当時の人々の生活について考えてみましょう。

■ 古墳時代の生活様式の変化

項目	西暦	300年		400年		500年	
		宇都宮	近畿地方	宇都宮	近畿地方	宇都宮	近畿地方
日常生活	土師器	■	■	■	■	■	■
	須恵器			■	■	■	■
	炉	■	■	■	■	■	■
	カマド			■	■	■	■
墓	前方後方墳		■	■	■	■	■
	前方後円墳			■	■	■	■
	横穴式石室					■	■

### 須恵器

5世紀になると、食器や調理・貯蔵用として使われていた土師器に加え、大陸の技術の導入により登り窯を使って焼かれた須恵器が使われるようになります。



↑ ① 塚山南古墳から出土した須恵器

### 炉からカマドへ

6世紀を前後する時期に、煮炊きをする場が、それまでのイロリ(炉)から、カマドに変わります。カマドは粘土や川原石を使って造られています。



↑ ② カマドの模型

### 馬

5世紀末～6世紀初めにかけて造られた塚山南古墳や下桑島西原2号墳から馬形埴輪が出土しています。このことから、この頃に一部の人が馬を使用していたことがわかります。



↑ ③ 塚山南古墳出土馬形埴輪

## 律令政治が始まったころの宇都宮(7~9世紀)

### 1 | 律令体制下の下野国と東山道

下野国の国府は現在の栃木市に置かれ、中央政府の命令のもとに下野国を治めていました。国内は9つの郡に分かれ、現在の宇都宮は河内郡に属していました。

当時、都から陸奥国(現在の福島県、宮城県、岩手県、青森県)を結ぶ主要道である東山道は、南西部の足利郡から北東部の那須郡にかけて通っていました。道沿いには原則として30里(約16km)ごとに駅家が設けられ、河内郡内には田部と衣川の2つの駅家が置かれました。



→ ④ 東山道



↑ ⑤ 古代下野国と東山道ルート



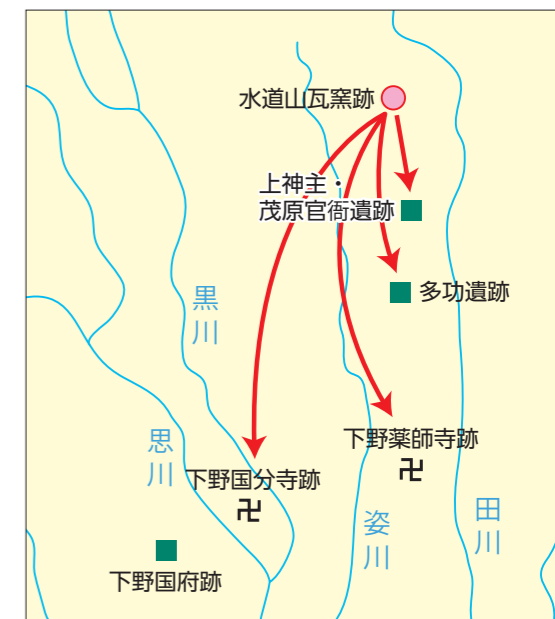
都まで歩いていくと、どのくらいかかるのかな。



下野国から奈良の都まで税を運ぶのに、行きはおよそ34日、帰りは17日ほどかかったそうだよ。

### 2 | 瓦の生産 水道山瓦窯跡

中戸祭町にある水道山のふもとで、古代の瓦を焼く窯跡が発見されました。谷地形を利用して3基の瓦窯が確認され、1・2号窯では下野薬師寺跡(下野市)、3号窯で下野国分寺跡(下野市)と上神主・茂原官衙遺跡、多功遺跡(上三川町)の瓦が焼かれていたことがわかっています。この時代の瓦は、寺や役所などの特別な建物に使われていました。



↑ ⑥ 水道山瓦の供給地

### 3 | 渡来人の姿

『日本書紀』によると、687年に朝鮮半島からの新羅人14人、689年と690年にも新羅人が下野国に移住させられています。宇都宮市内では、西下谷田遺跡(茂原町)・前田遺跡(上戸祭町)で新羅系土器が出土しており、新羅人の移住との関連がうかがわれます。



↑ ⑦ 前田遺跡出土の新羅系土器

#### 4 | 文字の普及

古代の日本での文字資料として有名なのは、埼玉県行田市の稲荷山古墳出土の鉄剣です。宇都宮市内の遺跡からは、土器の表面に墨書きをした土器(墨書土器)が出土しています。その中で最も古い事例は7世紀後半の西下谷田遺跡(茂原町)出土のものです。9世紀になると墨書土器の数は急増していることから、この時期以降、文字を読み書きできる人が増えたものと考えられます。



→1 鬼怒川沿いの西向遺跡出土の墨書土器  
土器の底に魚の絵が描かれ、横には「慶慶」の文字が書かれています。  
(栃木県教育委員会蔵)

#### 5 | 仏教の普及

大谷寺の洞穴壁面には、千手観音像・釈迦三尊像・薬師三尊像・阿彌陀三尊像が彫られています。中でも、大谷寺の本尊である千手観音像(大谷観音)は、像高が3.89mの半肉彫りされた均整の取れた仏像です。仏像は粘土や漆で形を整えたのち金箔が貼られていました。これらの仏像は、奈良~平安時代にかけて彫られたものです。

この他に、市内に残る平安時代の仏像は、多気山持宝院の不動明王坐像、西刑部町の「大関観音」の名で知られる聖観音菩薩立像があります。

→2 千手観音像  
(大谷観音)  
(大谷寺蔵)



動画を  
見てみよう!

日本遺産  
地下迷宮の秘宮を探る旅  
大谷観音(千手観音像)復元  
~彫る文化を読み解く~

#### 先人の知恵と工夫

#### のろし 烽と河岸段丘

##### ノロシを上げる最適な場所を探す

中世の城である飛山城跡(竹下町)の調査中に、12軒の古代の堅穴住居跡が確認され、その中の一軒から「烽家」と書かれた墨書土器が出土しました。「烽家」とは「ノロシを上げる施設」を示す言葉です。

「烽家」は古代の緊急連絡施設で、『軍防令』では約

20kmごとに設置するよう定められています。飛山の地は鬼怒川にせり出す見晴らしの良い場所で、対岸を古代の東山道が通っていました。

古代人は地形をよく観察し、適当な高さで、見通しのきく場所として鬼怒川にせり出す河岸段丘上に、緊急の連絡施設である「烽家」を設置したのです。



↑ 3 河岸段丘



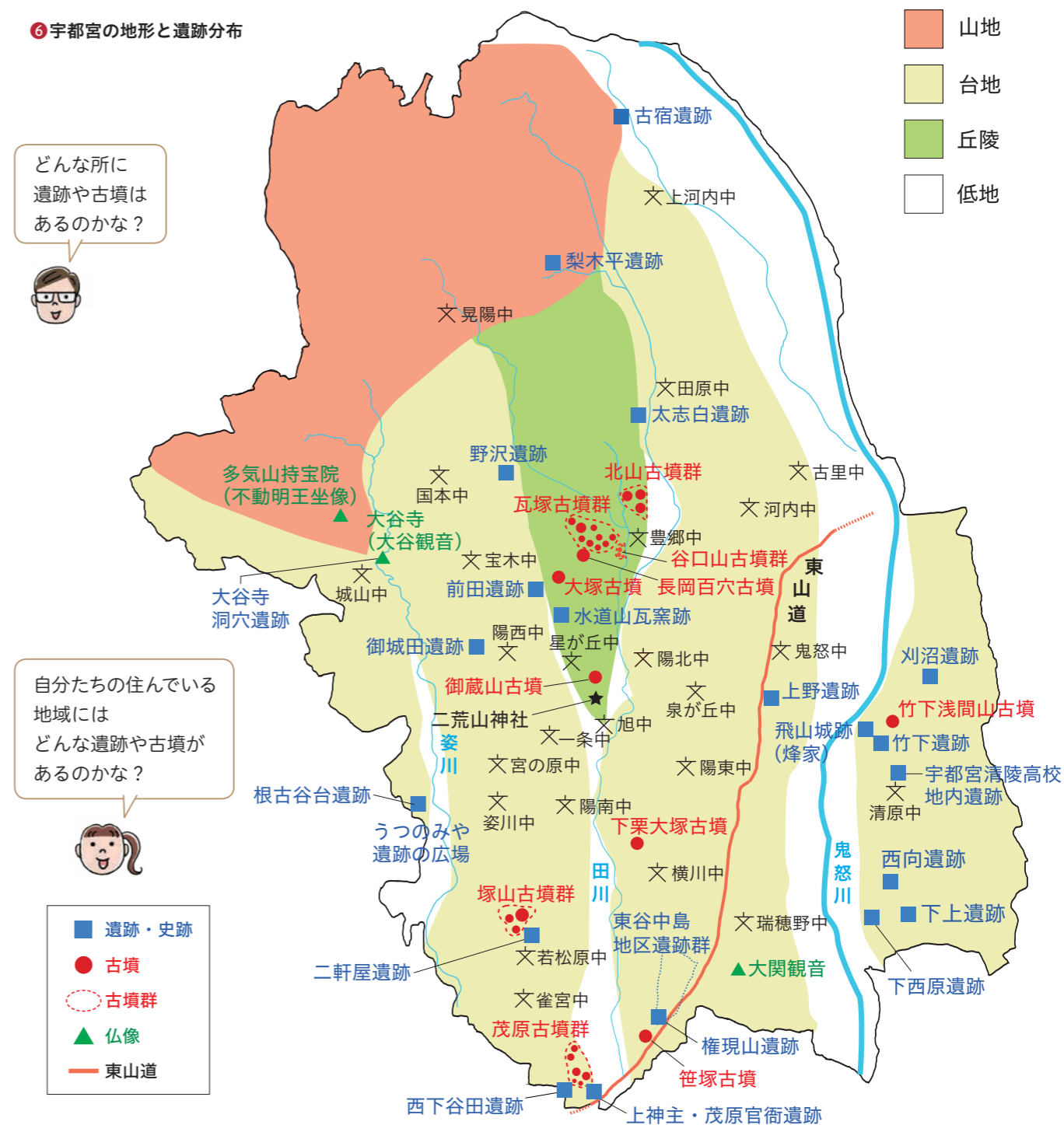
↑ 4 「烽家」と書かれた墨書土器



↑ 5 ノロシを上げる様子

#### 宇都宮の幕開け マップ

##### 6 宇都宮の地形と遺跡分布



#### 人物紹介

##### 大宝律令と下毛野古麻呂

下毛野古麻呂は、下野国河内郡を支配した下毛野氏を祖先とする飛鳥時代の貴族。700年に、藤原不比等らとともに大宝律令の選定に携わり、701年に完成させました。また、下野国河内郡内に下野薬師寺を建立しました。709年に亡くなりますが、そのときの官位

は式部卿大將軍正四位下で、地方豪族の出身としては異例の出世でした。古麻呂の出身である下毛野氏は、二荒山神社の主祭神である豊城入彦命の子孫とされています。



↑ 1 宇都宮二荒山神社



ふたあらかやま 二荒山神社に 来たことがあるのは 誰でしょう？

● みなとのよりとも 源頼朝



● たけだしんげん 武田信玄



● おだのぶなが 織田信長



### 宇都宮氏の登場

平安時代の終わり頃から安土・桃山時代までの約400年間、二荒山神社の社務職を兼ねて、宇都宮の地を治めたのは宇都宮氏の一族でした。その間、鎌倉幕府の重要な役職についたり、和歌の文化を華開かせたりするなどの業績が知られています。

社務職である宇都宮氏が神社の南側に居館を構えたことにより、まちは、二荒山神社と宇都宮城を中心に発展していきます。また、宇都宮城の東側を通る鎌倉から東北に向かう奥大道沿いには、宿場が発達しました。

ここでは、宇都宮氏の活躍について調べてみましょう。

**社務職**  
神社の事務全般をつかさどった神職の長。



↑ 2 中世宇都宮城周辺と道想定図

- 百人一首の成立に、宇都宮氏は関係があるって聞いたことがあるよ。
- 宇都宮氏の中には、元軍襲来を迎え撃つ総大将として九州に出陣した人もいたそうだよ。
- 今の宇都宮城址公園が宇都宮城だけど、田下町・田野町の多気城や、竹下町の飛山城は関係があるのかな？

動画を 見てみよう！



### 二荒山神社と宇都宮氏

二荒山神社は、宇都宮の歴史に深く関わっています。

ここでは、二荒山神社と宇都宮氏の関係について見ていきましょう。

#### 1 二荒山神社

二荒山神社の記録によると、「下之宮」の地(現在の馬場通り3丁目)に豊城入彦命(天皇の命令で東国をまとめたとされる人物)をまつたのがはじまりとされ、その後、838(承和5)年に現在の場所に社殿が移されたと伝えられています。

まつられている豊城入彦命は、武芸に優れていたとされ、古くから多くの武将に信仰されていました。

東北地方でおきた前九年の役(1051~1062年)をおさめた源義家や、鎌倉幕府を開いた源頼朝など名だたる武将が戦勝祈願のために二荒山神社を訪れています。

また、江戸幕府を開いた徳川家康は、本殿の階段につけられた擬宝珠を奉納しています。

#### 2 藤原宗円と二荒山神社の関係

宇都宮氏の系図によると、宇都宮氏初代とされる藤原宗円は、平安時代の前九年の役で源頼義・義家父子につき、二荒山神社で戦勝の祈願を行いました。その功績により二荒山神社の社務職になったといわれています。その後、宇都宮氏は代々二荒山神社の社務職を務めるようになりました。

### 鎌倉幕府の有力御家人 宇都宮氏

宇都宮氏は、鎌倉幕府の有力御家人となり、評定衆や引付衆などの重要な役職につき活躍しました。また、独自の和歌集を作るなど文化の面でも才能を発揮しました。このような文武に秀でた宇都宮氏の歴史について見ていきましょう。

#### 1 はじめて宇都宮を名乗った 3代宇都宮朝綱

朝綱は、源頼朝から、「宇都宮明神検校」としての立場が認められたほか、「宇都宮」の名字をはじめて名乗りました。また、1189(文治5)年の源頼朝による奥州合戦(奥州藤原氏との戦い)に参加し、その勝利に貢献しました。

宇都宮氏は幕府の有力御家人として鎌倉に屋敷を構え、頼朝以後も歴代将軍に仕えていきました。



↑ 3 下之宮



↑ 4 徳川家康が奉納したとされる勾欄擬宝珠 (市指定文化財)

「下野国河内郡宇都宮大明神御建立 征夷大將軍源家康」と陰刻されている。

- 評定衆**  
鎌倉幕府の最高決議機関。
- 引付衆**  
評定衆の下に領地訴訟等を迅速・公正に行うために設置された機関。
- 検校**  
社寺やその行事を総裁する職。



↑ 5 宇都宮朝綱像 (「古画類聚 宇都宮朝綱像(ほか)部分, 松平定信(編), 東京国立博物館蔵)

### 学習問題

宇都宮氏とは、どんな一族だったのだろうか。





↑ 1 宇都宮頼綱(蓮生)像 (三鈷寺蔵)



↑ 2 宇都宮景綱像 (「古画類聚 宇都宮朝綱像ほか」部分, 松平定信(編), 東京国立博物館蔵)



↑ 3 清庵寺の鉄塔婆 (国重要文化財)  
 8代城主宇都宮貞綱が、亡き母の13回忌の供養のために奉納した鉄塔婆。

## 2 百人一首ゆかりの 5代宇都宮頼綱

朝綱の孫である頼綱は、幕府にそむいた疑いをかけられ、その疑いははらすために、出家して「蓮生」と名乗るようになりました。

蓮生は京都に拠点に移した後は、浄土宗の法然などから学び、信仰心の厚い武将として活躍しました。

また、歌人としても才能に恵まれ、この時代の有名な歌人である藤原定家と親交をもちました。蓮生は京都の小倉山にある山荘の襖に貼る色紙和歌も藤原定家に選んでもらいました。その選ばれた和歌が、後に百人一首のもととなったといわれています。

## 3 宇都宮弘安式条を制定 7代宇都宮景綱

景綱は、1269(文永6)年に引付衆に、1273年には評定衆につきました。

また、鎌倉幕府の武家法である「御成敗式目」にならって「宇都宮弘安式条」を制定しました。8代執権北条時宗が死去すると、多くの御家人とともに出家しました。

## 4 元軍討伐の総大将 8代宇都宮貞綱

貞綱は、1281(弘安4)年の元軍の襲来に対し日本側の総大将として、約6万人の兵を率いて九州に出陣しました。暴風により、元軍の軍船の大半は海に沈み、実際に元軍と戦うことはありませんでした。しかし、貞綱が総大将に任命されたことは、宇都宮氏に対して鎌倉幕府の信頼が厚かったことを物語っています。

## 室町幕府の始まりと宇都宮氏

鎌倉幕府が倒れ、後醍醐天皇による建武の新政が短期間に終わりをつげた後、足利尊氏による室町幕府が開かれ、室町時代が始まります。

ここでは、鎌倉幕府が倒され、南北朝の争乱の中で、宇都宮氏がどのような状況になったのかについてみていきましょう。

## 1 坂東一の弓矢とり 9代宇都宮公綱

鎌倉時代末期になると、幕府を倒そうとする動きが活発になります。宇都宮氏も幕府軍として京に向かい、楠木正成らの反幕府軍と向かい合いました。公綱は、「坂東一の弓矢とり」として、有名であったことから、楠木正成は直接の戦いを避けました。宇都宮氏がいかに恐れられていたがわかります。

## 2 足利尊氏を助けた 10代宇都宮氏綱

約60年間に及んだ南北朝の争乱では、氏綱は重臣である芳賀氏とともに、尊氏側につき活躍をしました。尊氏と弟の直義が対立した際も尊氏側として戦いました。その功績により、氏綱は越後(現在の新潟県)、上野(現在の群馬県)の守護となりました。

しかし、室町幕府の出先機関である鎌倉府内の勢力争いに巻きこまれ、10年ほどで守護職を解任されてしまいました。

## 戦国の世の宇都宮氏

戦国の世になると、越後の上杉氏や、小田原の北条氏が下野国に侵攻してきました。それに対し、宇都宮氏は、常陸の佐竹氏など周辺領主との結束を固め、生き残りを図っていきました。

## 1 豊臣秀吉に仕えた 22代宇都宮国綱

16世紀後半になると、小田原の北条氏が宇都宮にたびたび侵攻し、宇都宮城下が焼かれました。そのため、宇都宮氏は一時期、西方の多気山(田下町・田野町)に拠点を移しました。

1590(天正18)年、国綱は豊臣秀吉が小田原の北条氏を攻める際に、秀吉側として戦いました。秀吉は北条氏を倒した後、宇都宮の地を訪れ、関東や東北の武将にさまざまな命令を出しました。

その後、国綱は旧領をそのまま支配することを許され、豊臣政権下の大名となりました。さらに、1592(文禄元)年の朝鮮出兵にも参加しました(→p.29)。しかし1597(慶長2)年、突然改易されてしまい、長きにわたる宇都宮氏による支配が途絶えました。

## 2 宇都宮氏の改易後

宇都宮氏が改易されると、豊臣秀吉の命により浅野長政が宇都宮城の城代を務め、その後、蒲生秀行が城主となりました。



↑ 4 宇都宮公綱像 (『下野国誌』巻九, 国立国会図書館蔵)

『太平記』に記された宇都宮公綱の記述「(前略)宇都宮は、坂東一の弓矢取り(武士)である。紀清両党の兵士たちも、戦場で命をすてることなど恐れていない(後略)」

※紀清両党…「紀」は益子氏、「清」は芳賀氏のこと。宇都宮氏の重臣で、宇都宮氏と姻戚関係を結んでいました。

### ことは

◆ 守護  
 鎌倉・室町両幕府の職制で、国ごとに置かれた。軍事や国内の統制の役割を与えられた役職。



↑ 5 多気山

### ことは

◆ 改易  
 刑罰として官職や身分を取り上げること。



まとめる

ひろげる

平安～安土桃山時代まで、宇都宮氏は長きにわたって、宇都宮の地を治めました。宇都宮氏は鎌倉時代には幕府の要職に就き、有力御家人として活躍し、元軍の襲来では、日本側の総大将に任命されました。また、室町時代には、幕府を開いた足利尊氏や天下統一を果たした豊臣秀吉を支えた武将の一人でした。一方で、二荒山神社の神官であり、独自の和歌集をつくる業績もあり、文芸にも武芸にも秀でた一族でした。



22代続いた宇都宮氏

平安時代から安土桃山時代まで続いた宇都宮氏

初代藤原宗円から、豊臣秀吉に改易された22代宇都宮国綱まで、長きにわたり宇都宮を治めた宇都宮氏について見ていきましょう。

時代	代	当主名 (読み)	没年齢	主なできごと
平安	1	藤原宗円 (そうえん)	不明	
	2	藤原宗綱 (むねつな)	不明	
	3	宇都宮朝綱 (ともつな)	82歳	源頼朝の奥州合戦に従軍する
鎌倉	4	宇都宮業綱 (なりつな)	27歳	
	5	宇都宮頼綱 (よりつな)	88歳	藤原定家に別荘の色紙和歌を頼む
	6	宇都宮泰綱 (やすつな)	59歳	鎌倉幕府の評定衆となる
	7	宇都宮景綱 (かげつな)	64歳	弘安式条を制定する
	8	宇都宮貞綱 (さだつな)	51歳	元軍の襲来に大將軍として出陣する
	9	宇都宮公綱 (きんつな)	55歳	楠木正成軍と対陣する
	10	宇都宮氏綱 (うじつな)	45歳	上野・越後の守護職となる
	11	宇都宮基綱 (もとつな)	31歳	小山義政と戦い戦死する (茂原の戦い)
	12	宇都宮満綱 (みちつな)	32歳	汗かき阿弥陀を奉納する
	13	宇都宮持綱 (もちつな)	28歳	上総の守護職となる
室町	14	宇都宮等綱 (ともつな)	41歳	鎌倉公方足利成氏に敗れ白河に逃げる
	15	宇都宮明綱 (あきつな)	21歳	
	16	宇都宮正綱 (まさつな)	31歳	
	17	宇都宮成綱 (しげつな)	48歳	
	18	宇都宮忠綱 (ただつな)	31歳	結城政朝と戦い敗れる (猿山の合戦)
	19	宇都宮興綱 (おきつな)	61歳	
	20	宇都宮尚綱 (ひさつな)	37歳	那須高資と戦い戦死する (五月女坂の戦い)
	21	宇都宮広綱 (ひろつな)	32歳	上杉謙信の関東出兵に従う
安土桃山	22	宇都宮国綱 (くにつな)	40歳	朝鮮出兵のため肥前名護屋に出陣する

宇都宮の由来と二荒山神社

なぜ宇都宮っていうの？

宇都宮の名前の由来は、二荒山神社に関係しています。二荒山神社は、古くから宇都宮大明神と呼ばれていました。なぜ、「宇都宮」と呼ばれるようになったのかははっきりとは分かりませんが、ここではいくつかの説を紹介します。

- 遷しの宮…下之宮から現在の地白ヶ峰に移されたことから
- 一之宮…下野国の一之宮の「いちのみや」がなまって
- 征討の宮…東北を征討するために立ち寄ったことから
- 鬱の宮…木々がうっそうとしていることから

※諸説あります。

全国に広がる宇都宮氏の足跡

中世の宇都宮氏は、1189(文治5)年の源頼朝が奥州藤原氏を倒す阿津賀志山の合戦や鎌倉幕府の滅亡に繋がる1332(正慶元)年の四天王寺の合戦など、歴史の大事な場面に登場します。また、鎌倉や京都にも足跡を残しているほか、一族が豊前(大分県)や伊予(愛媛県)でも活躍をしています。



**愛媛県に多い「宇都宮」さん**  
 全国で「宇都宮」の名字を使っている人が多い都道府県は愛媛県です。これは、宇都宮氏が伊予国の守護になったことが由来と考えられます。

阿津賀志山の合戦

1189年、源頼朝は弟源義経をかくまっていた奥州藤原氏を倒すため、奥州に進攻します。その際、宇都宮朝綱軍と合流し、二荒山神社に戦勝を祈願します。

その後、東北に向かった頼朝軍は、阿津賀志山で藤原国衡軍と戦います。このとき、宇都宮朝綱軍が奇襲攻撃を行い、頼朝軍の勝利に貢献しました。

→ ① 阿津賀志山の合戦の様子 (模型)



(福島県立博物館提供)

## 鎌倉幕府と宇都宮氏

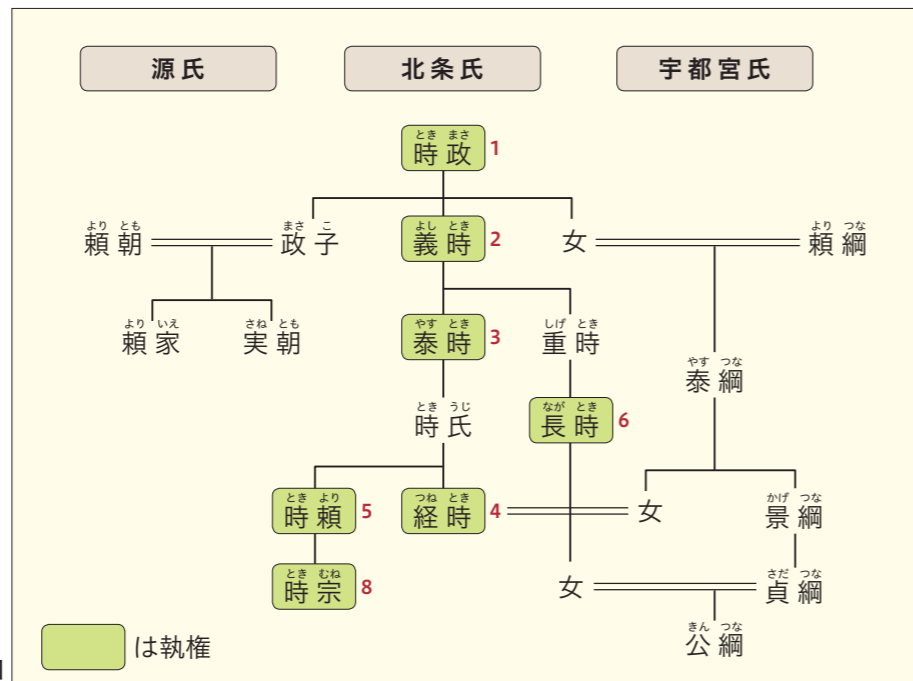
### 1 執権北条氏と宇都宮氏

宇都宮氏は、鎌倉幕府の有力者である執権北条氏と婚姻関係を結ぶことにより、幕府内での地位を高め、評定衆や引付衆など鎌倉幕府の要職を担いました。

宇都宮氏が北条氏と深く結びついていたようだね。



→ 1 北条氏との関係を示す系図



### 2 宇都宮稲荷神社と宇都宮辻子

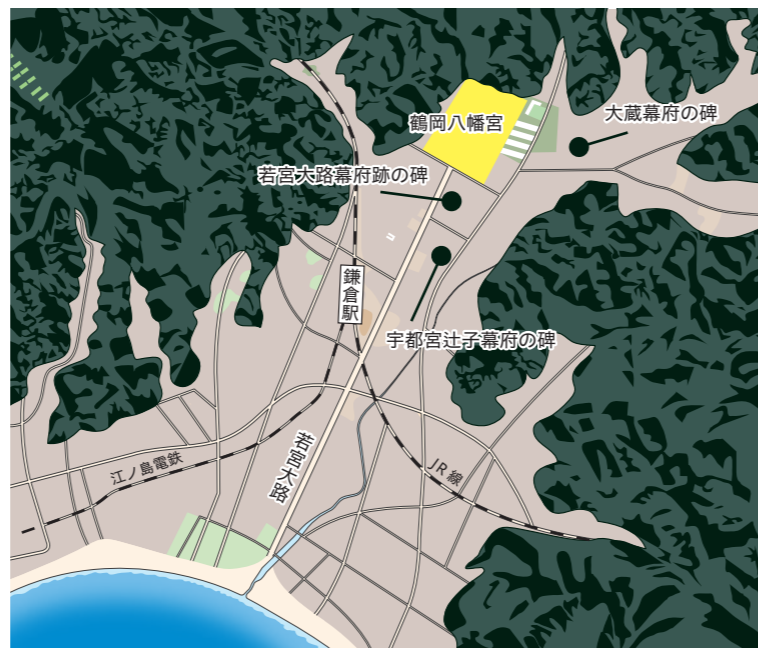
神奈川県鎌倉市に宇都宮稲荷神社という名前の神社があります。もともとは、鎌倉幕府の有力御家人である、宇都宮氏の館があった場所で、その前の通りは宇都宮辻子とよばれていました。宇都宮辻子に面した場所に幕府が11年間置かれたこともあり、宇都宮辻子幕府とよばれていました。今では、鎌倉幕府と宇都宮氏の関係の深さを物語る神社として当時をしのぶことができます。



↑ 2 鎌倉にある、宇都宮稲荷神社

### 3 鎌倉幕府の変遷

鎌倉幕府とは、源頼朝が鎌倉に開いた武家政権を指します。元々「幕府」とは将軍の居所または陣営を指す言葉で、鎌倉時代にはその場所が移動しました。それぞれの幕府は、頼朝が幕府を開いた大蔵幕府(1180～1225年)、その後、宇都宮氏の居館近くで宇都宮辻子幕府(1225～1236年)、さらに最後の若宮大路幕府(1236～1333年)と場所が移動しました。



↑ 3 幕府の置かれた場所

## 宇都宮氏の文芸活動

### 1 宇都宮頼綱(蓮生)と藤原定家

5代頼綱の母は平清盛のいとこに当たる平長盛の娘であることから、頼綱は子どものころから和歌に親しんでいました。出家し、蓮生を名乗ると、和歌を通じて親しくしていた藤原定家の子為家のもとに娘を嫁がせるなど、より親しい関係となりました。そのような関係から、藤原定家は蓮生より依頼されて小倉山にある山荘の襖に貼る障子歌色紙を贈りました。これが、後の小倉百人一首のもととなります。

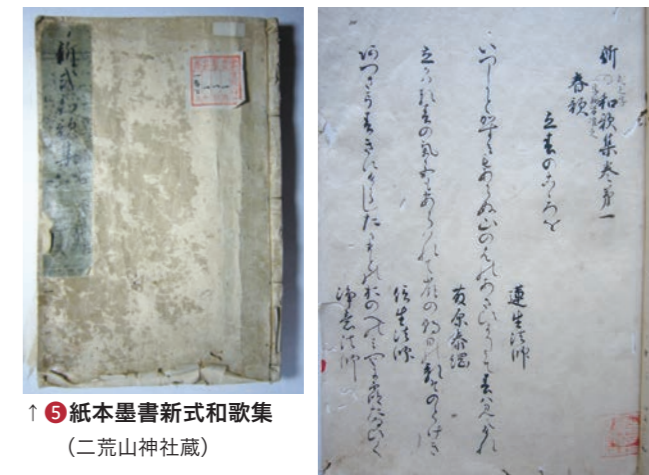


↑ 4 藤原定家の肖像画 (常寂光寺蔵)

### 2 宇都宮歌壇と新式和歌集

宇都宮歌壇は鎌倉時代に成立した歌壇の一つで、京都・鎌倉と並び日本三大歌壇の一つともいわれています。歌壇の中心となったのが頼綱やその弟の塩谷朝業、甥の笠間時朝などの宇都宮一族でした。このような文芸活動は6代泰綱・7代景綱・8代貞綱にも引き継がれ、宇都宮氏を中心に京都・鎌倉の歌人の和歌を収録した『新式和歌集』が作られました。

歌壇 歌人たちの社会。



↑ 5 紙本墨書新式和歌集 (二荒山神社蔵)

## 宇都宮氏の宗教活動

### 1 僧侶としての蓮生

蓮生は浄土宗の法然を尋ねて、その後弟子となります。法然の死後はその弟子の証空を師とし、証空が亡くなると遺言に従って遺骨を京都の西山に葬り、多宝塔を建てました。その一角の往生院にて師の教えを守り、82歳で生涯を閉じました。



↑ 6 法然上人像 (二尊院蔵)

### 2 宇都宮氏ゆかりの仏像

宇都宮市内には、貞綱によって開かれた興禅寺の本尊釈迦如来坐像や景綱が開いた東勝寺(廃寺)からの客仏と伝わる普賢菩薩坐像、満綱が開いた長楽寺(廃寺)からの客仏と伝わる銅造阿弥陀如来坐像(汗かき阿弥陀)など宇都宮氏ゆかりの仏像が今に伝わっています。



↑ 7 釈迦如来坐像 (興禅寺蔵)



↑ 8 普賢菩薩坐像 (宝蔵寺蔵)

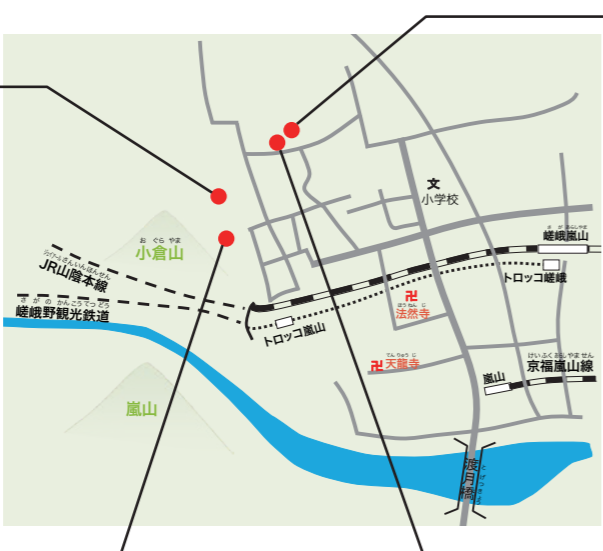


↑ 9 銅造阿弥陀如来坐像 (一向寺蔵)

## 京都で見る宇都宮ゆかりの地



二尊院  
藤原定家の山荘があったといわれる場所の一つです。



常寂光寺  
定家の山荘があったといわれる場所の一つです。ここには「藤原定家の山荘跡」、「小倉百人一首編纂之地」と書かれた石碑があります。



藤原定家山荘跡



「小倉百人一首編纂之地」石碑



厭離庵  
定家の山荘があったといわれる場所の一つです。



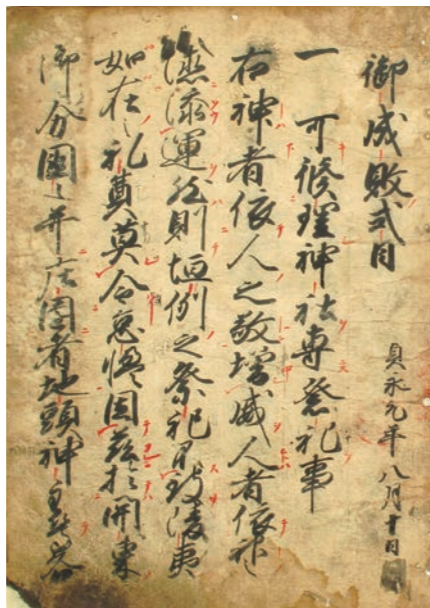
中院山荘跡  
蓮生の山荘があったといわれる場所です。蓮生は、ここにあった山荘の襖に貼る色紙歌を定家に依頼しました。

## 宇都宮家中をまとめるための宇都宮弘安式条

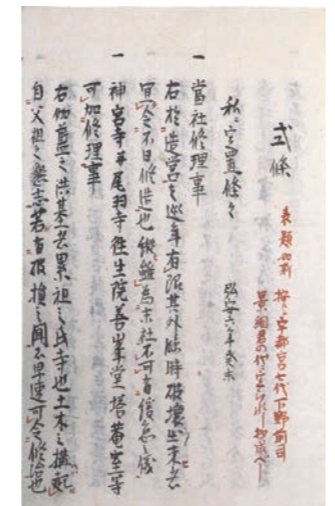
「宇都宮弘安式条」は、1283(弘安6)年に宇都宮景綱が制定しました。この法は、鎌倉幕府の武家法である「御成敗式目」の影響を受けて成立しました。武家法としてはさきがけ的なものの一つです。

その内容は、第一条から第七十条まであり、社寺に関するきまり、裁判方法に関するきまり、訴訟に関するきまり、幕府との関係に関するきまり、一族・郎党に対する統制策に関するきまりがあります。宇都宮氏は代々宇都宮二荒山神社の社務職であったことから、ほぼ三分の一が社寺に関するきまりで占められています。景綱は鎌倉幕府の評定衆で「御成敗式目」に詳しく、これを参考に宇都宮家独自の法をつくり家中の統制を図りました。

家中 武家および家臣などの総称



御成敗式目 (栃木県立博物館提供)  
執権北条泰時が中心となり、源頼朝以来の先例や慣習等をもとに制定された武家社会のための法令です。



弘安式条『宇都宮史』  
(上野記念館蔵)  
原本は失われていますが、江戸時代後期の『宇都宮史』や『宇都宮志料』にその写本が引用されています。

## 先人の知恵と工夫

## 豊臣秀吉と宇都宮国綱

### 1 豊臣秀吉の宇都宮仕置き

豊臣秀吉は1590(天正18)年に小田原の北条氏を倒し、天下統一を果たします。その後、宇都宮を訪れ、関東や東北の武将たちに様々な命令を出しました。これを「宇都宮仕置き」といいます。その中の一つに「破却令(城を取りつぶす)」があり、飛山城もこの命令により廃城になったと考えられます。



豊臣秀吉の経路



名護屋城跡図

### 2 豊臣秀吉の朝鮮出兵と宇都宮国綱

全国を統一した豊臣秀吉は、2度にわたって朝鮮に大軍を送ります。1592(文禄元)年の朝鮮出兵の際には、宇都宮国綱ら500人が名護屋城(佐賀県唐津市)に参陣しています。国綱は1597年に突然改易された後も出兵をしましたが、秀吉が途中で亡くなり、宇都宮家を復興させることはできませんでした。

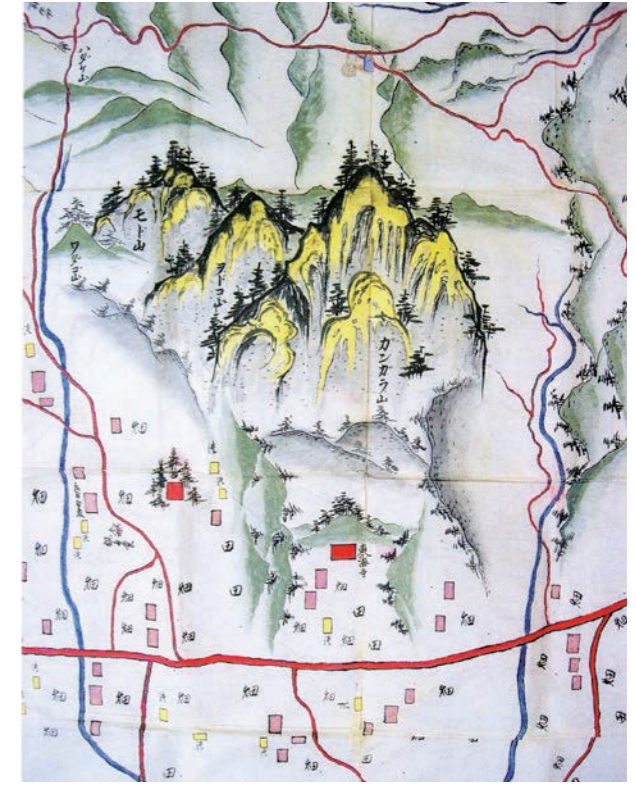
### 3 篠井金山

1598(慶長3)年の豊臣氏蔵納目録によれば、諸国の金山・銀山から秀吉に献上された黄金は約3400枚で、その中に浅野長政が、下野宇都宮領金山より黄金を納めたことが記録されています。この時の浅野長政は、宇都宮国綱が改易となった後の宇都宮城代でした。

宇都宮の北西部の篠井地区にはガンガラ山と呼ばれた山があり、金が採掘されていました。この地区には金山の坑夫によって歌われていた「篠井の金堀唄」が今に伝わっています。

『篠井の金堀唄』  
(宇都宮市指定無形文化財)

- ハ 曇るガンガラ宝の山よ
- 星に黄金が流れ出る チンチン
- ハ 佐竹奉行は己等の主よ
- 恵みあつきで精が出る チンチン
- ハ 右に鎧持ち左に打金
- 一つ打つ度火花散る チンチン
- ハ 坑夫さんなら来ないでくれ
- 一人娘の気をそそる チンチン
- ハ 夫婦揃って黄金を掘れば
- 女房笑顔で背負い出す チンチン



篠井村絵図 (個人蔵)

## 宇都宮を代表する3つの城

### 宇都宮城跡

宇都宮城は、田川の段丘上に築かれた城です。築城者については、藤原秀郷や藤原宗円などの説があります。

この城は、いく度かの戦闘に巻き込まれながら、戦国時代には何重にも堀をめぐらす大規模な城となりました。宇都宮氏はこの城を居城とし、城の北側に位置する二荒山神社の社務職を務めながら、周辺を支配しました。

中世の城の様子が見える絵図は残っていませんが、城址公園整備に先立つ発掘調査などから、その一端をうかがうことができます。

現在、宇都宮城址公園内ものしり館に発掘で出土した資料が展示してあります。



↑ ① 中世の宇都宮城イメージ図

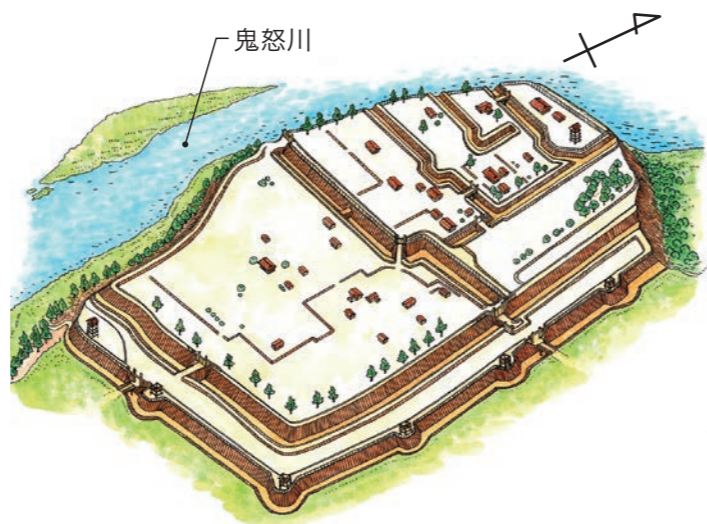
### 飛山城跡

飛山城は、鬼怒川の段丘上に築かれた城です。

この城は、芳賀高俊により、永仁年間(1293~98年)に築かれたと伝えられています。その後、南北朝時代や戦国時代にいく度かの戦いがあり、豊臣秀吉の時代に廃城になったと考えられます。

飛山城跡は、東と南側を二重の堀で、西と北側を鬼怒川によって守られています。一番外側の堀(6号堀)には櫓台がほぼ等間隔に5箇所設けられています。北から2番目の櫓台の北側に木橋があり、ここが大手口と考えられます。

現在は史跡公園として整備され、とびやま歴史体験館には、当時の資料が展示してあります。



↑ ② 中世の飛山城イメージ図

### 多気城跡

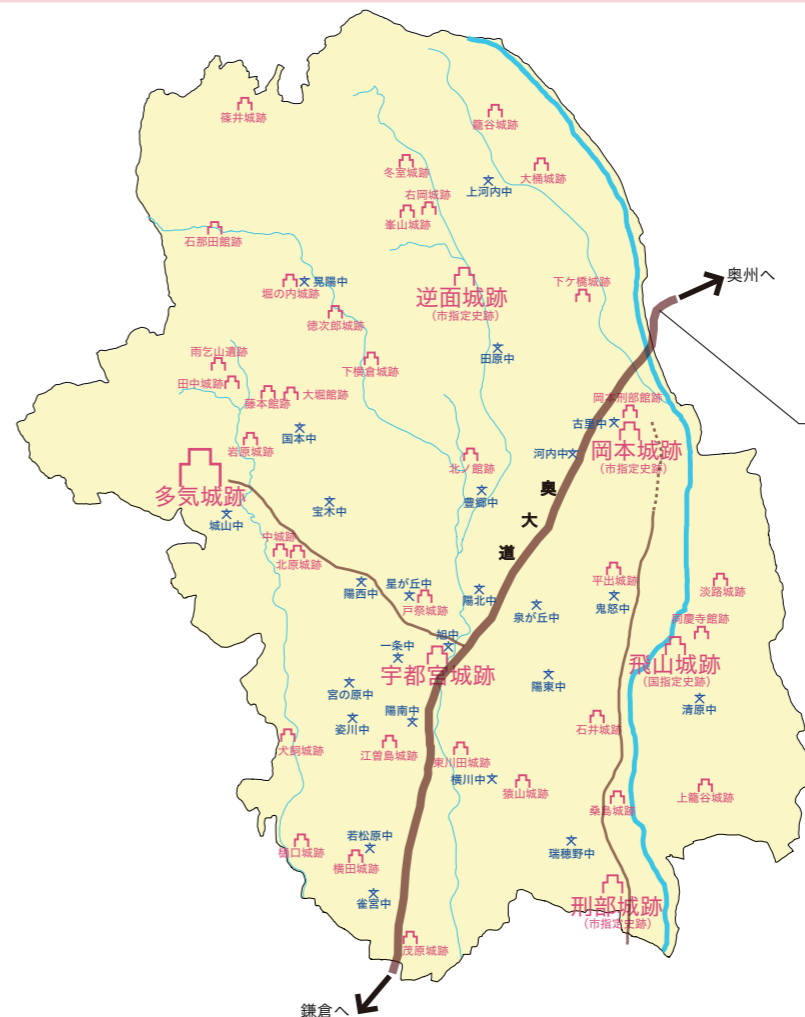
多気城は、市の北西部に位置し、約150haにおよぶ山全体を利用して築かれた城です。その築城に関しては、1063(康平6)年に藤原宗円が築城したとする説や、1576(天正4)年に22代宇都宮国綱が築城したとする説などがあります。

戦国時代も終わりの頃、北条氏の侵攻に対し、国綱は本城を宇都宮城から多気城に移しますが、豊臣秀吉により北条氏が倒されると、再び宇都宮城に戻ります。



↑ ③ 中世の多気城イメージ図

## 市内に残る宇都宮氏ゆかりのお城



自分たちの住んでいるところの近くにお城があったんだね。



奥大

鎌倉と奥州北端(青森県の陸奥湾)までを結んだ道。

宇都宮氏とどんなゆかりがあるのか、調べてみよう。



赤で囲まれたお寺や神社が宇都宮氏ゆかりだよ。



## 市内中心部に残る宇都宮氏ゆかりの場所

